



アカガレイ 日本海系群 令和4年度資源評価結果

生物学的特性

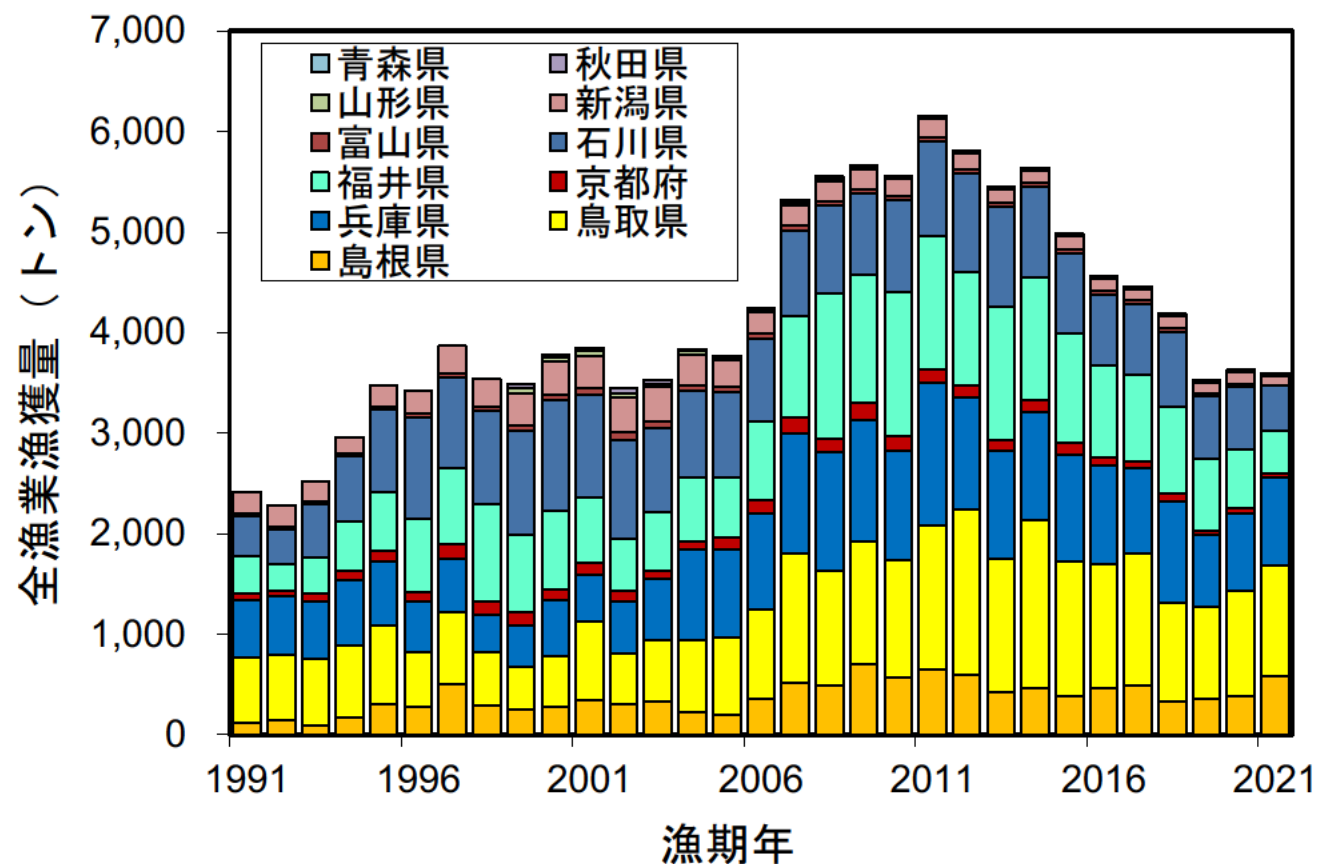


生物学的特性

- 寿命：雌20歳、雄15歳
- 成熟開始年齢：
雌5歳（50%）、10歳（100%）
雄3歳（50%）、10歳（100%）
- 産卵期・産卵場：2～4月、若狭湾内、経ヶ岬周辺および赤碕沖を中心とする隠岐諸島周辺の海域
- 食性：浮遊期は小型プランクトン、着底後は周年クモヒトデ類、季節的にマイクロネクトン
- 捕食者：大型のマダラは小型のアカガレイを捕食する

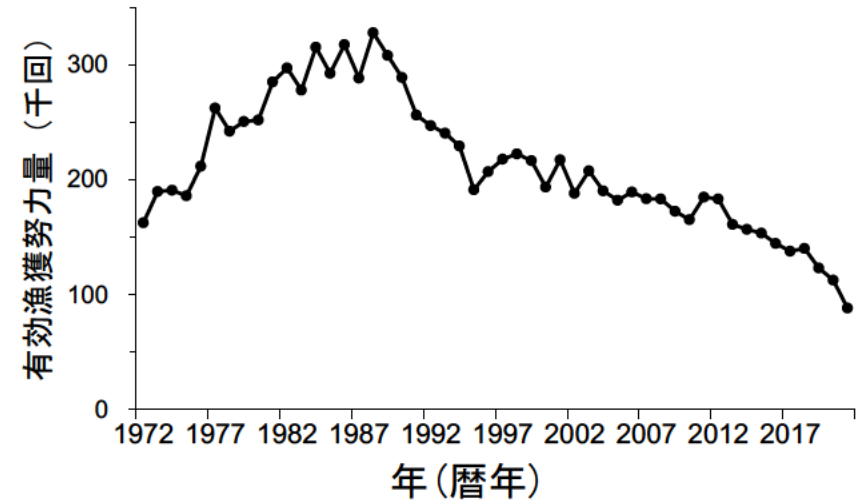
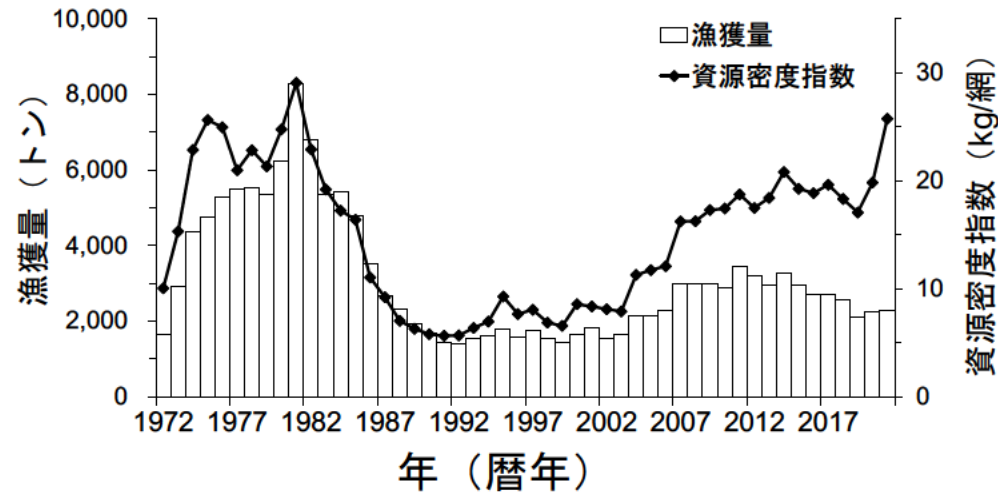
- ほぼ周年漁獲される

漁獲の動向①



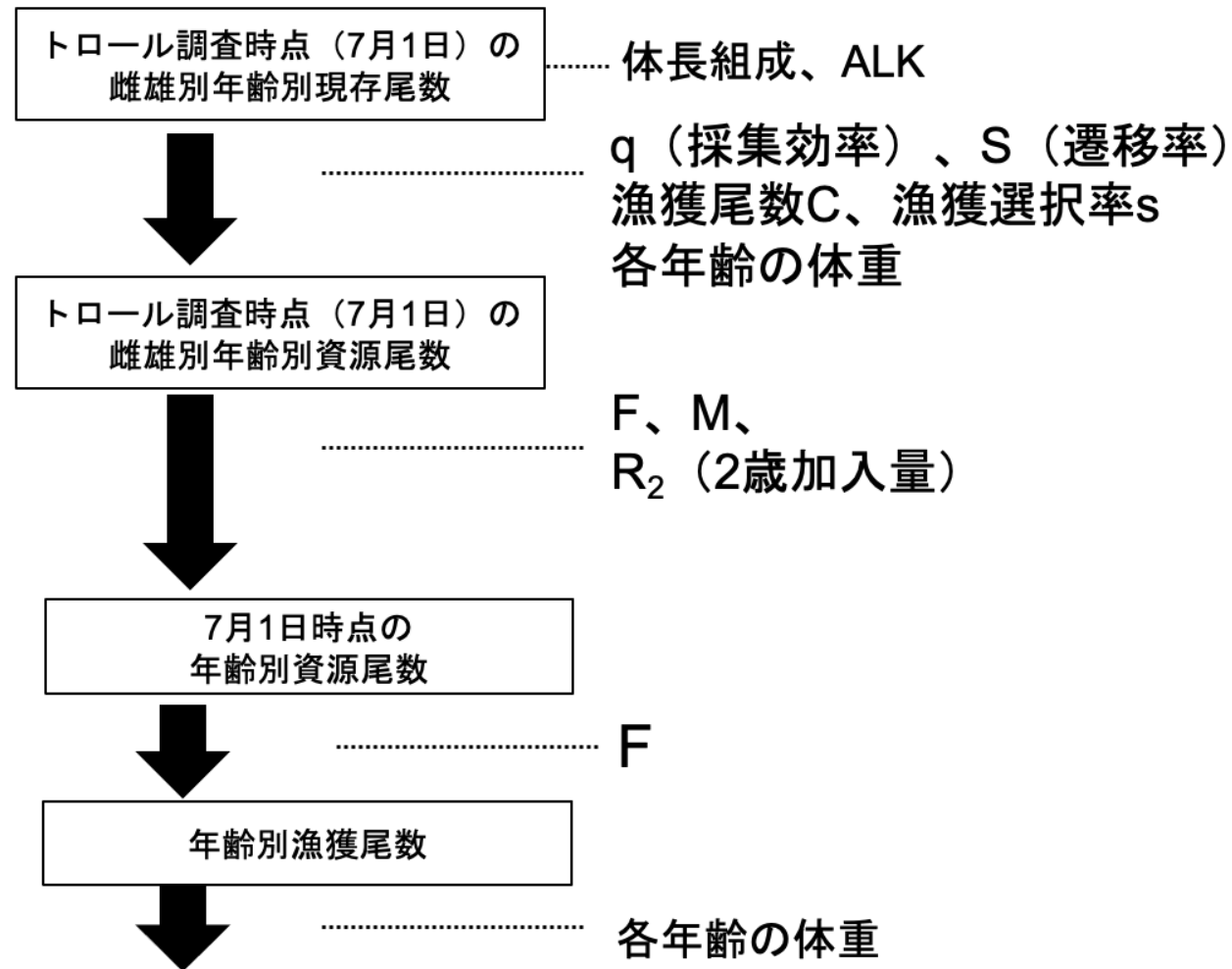
- 漁獲量は1992年に2,281トンと最低を記録するも、その後増加、2015年以降は減少傾向
- 2021年の漁獲量は3,616トン
- 鳥取県、兵庫県、福井県、石川県の割合が多い
- 9割以上の漁獲は沖合底びき網（沖底）と小型底びき網

漁獲の動向②



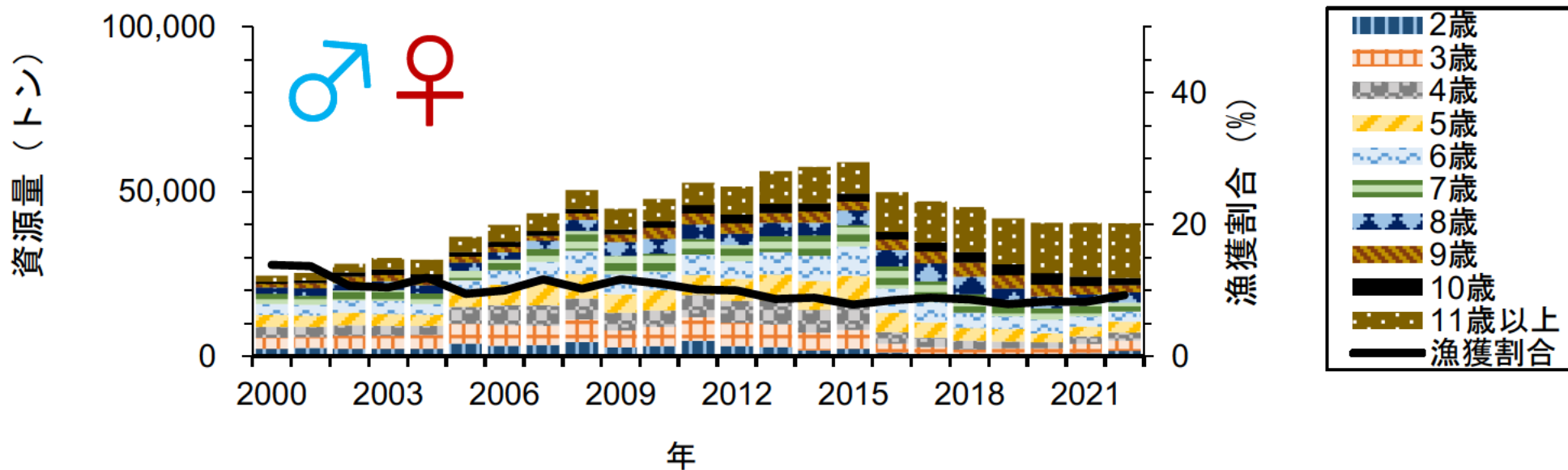
- 沖底（1そうびき）の資源密度指数は1981年をピークに減少したが、2004年から増加に転じ、2021年は25.8
- 沖底（1そうびき）の有効漁獲努力量は、1980年代後半から減少傾向、2021年はおおよそ9万回

資源評価の流れ



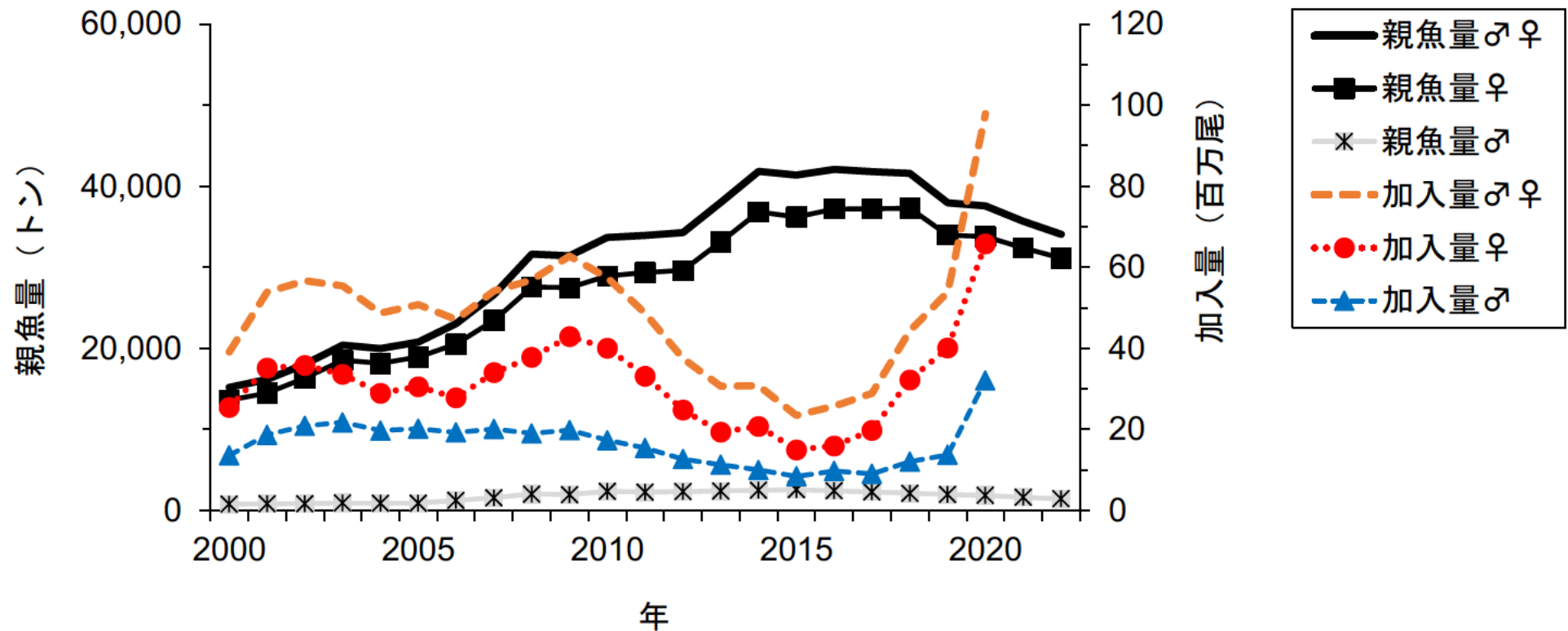
管理に係る目標基準値、資源の動向等については、
本年度中に開催される研究機関会議資料に記述します

資源の動向①



- 2022年の日本海西部資源量：40,428トン、2019年からほぼ横ばい
- 2022年の日本海西部漁獲割合：9%

資源の動向②



- 日本海西部親魚量：2016年の42,092トンがピーク、以後は増減を繰り返しつつ推移、2022年は34,077トン
- 日本海西部加入量：2000年代に多かったが、2012～2016年にかけて最も少なかった。その後は雌雄ともに増加傾向

資源評価のまとめ

- 日本海西部の資源量は2019年以降横ばい、2022年は40,428トン
- 資源量と加入量は面積密度法とコホート解析によって算出

管理に係る目標基準値、資源の動向等については、
本年度中に開催される研究機関会議資料に記述します